

葛飾がセルロイド産業で栄えた時代へ

わが国では大正初期から昭和40年代にかけて、セルロイド素材の日用品や玩具などが生産されていました。特に葛飾区では、セルロイド玩具の生産が盛んで、四つ木、立石などに多くの工場が存在していました。この特別展では、葛飾区のセルロイド産業の状況や技術について、当時携わった人々の視点を通じて紹介していきます。日本の近代化を支えたセルロイド産業の歴史や文化を再検討する機会となればと思います。



自由人形 昭和20年代 榎セキグチ所蔵



着付けベビー人形 昭和5(1930)年 榎セキグチ所蔵



吹き込み成形用のセルロイド金型を作る 平成28(2016)年 モールドメーカー(株)カミジヨー協力

【展示構成】

1 東京東部のセルロイド工業

葛飾区を始めとする東京東部ではセルロイドの人形玩具が盛んに製造されました。おなじみのキューピーをはじめとする外国の風俗を模した人形が葛飾区でたくさん生産され、大正から昭和初期にかけて海外に輸出されました。昭和2(1927)年には、日本のセルロイド玩具の生産量は世界一位となりました。ここでは葛飾区で作られた100点を越えるセルロイド玩具やセルロイドの縁起物を展示し、セルロイド玩具産業が盛んになった背景を紹介していきます。

2 セルロイド工業に携わった人たち

セルロイドの製品を作るには、たくさんの工程があり、携わる職人も大勢いました。ここではセルロイド産業を支えたマイスターたちの活躍の様子を、製造用具や映像資料などで紹介し、セルロイド産業の歴史や技術、文化を紹介します。

3 暮らしのなかのセルロイド

セルロイドは1870年、アメリカのジョン・ウェズリー・ハイエットによって実用化された合成樹脂素材です。熱加工することで容易に形を変えることができ、彩色がしやすいこと、大量生産が可能なことなど多くの利点があったため、大正時代から昭和40年代にかけて、万年筆やメガネ、風呂桶や筆箱などの日用品の材料としてたくさん利用されました。それまで象牙や銘木など高級な材料で作られていた道具や玩具が、セルロイドの登場によって大衆化し、庶民の暮らしを変えていきました。

見どころのポイント

1 葛飾区登録有形民俗文化財の「旧セキグチドールハウス収蔵品一括」が展示されます。貴重なセルロイド人形が、所狭しと並ぶ姿は圧巻です！



2 現代に復活したセルロイド製品の製作過程を、製造用具や映像資料とともに大型パネルで紹介합니다。

3 昭和30年代まで一般的だったセルロイド製の日用品を、昭和30年代の復元家屋のコーナーで展示します。



特別展 関連イベント

セルロイドの原料である綿と種を分ける「綿くり」体験 綿くり体験教室

11月26日(土) 午前10時から11時30分 当館講堂
費用◎入館料 100円のみ(土曜日につき中学生以下無料)
事前申込み不要/先着30名(受付開始午前9時45分)

クリスマスのオーナメントにどうぞ セルロイド人形染付体験教室

12月24日(土) 午後2時から4時 当館講堂
費用◎入館料 100円のみ(土曜日につき中学生以下無料)
要・事前申込み/キーワード「染付体験」
締切日◎12月15日(木曜日・必着)

トークショー◎葛飾区のセルロイド玩具産業について

講師◎関口晃市氏(株式会社セキグチ会長)ほか
12月10日(土) 午後2時から4時 当館講堂
受講料◎200円
要・事前申込み/キーワード「トークショー」
締切日◎12月1日(木曜日・必着)

講演会◎キューピーにかかわる歴史や文化について

講師◎北川和夫氏(日本キューピークラブ会長)
12月17日(土) 午後2時から4時 当館講堂
受講料◎200円
要・事前申込み/キーワード「講演会」
締切日◎12月1日(木曜日・必着)

往復はがきに

①キーワード
②お名前 ③年齢
④住所 ⑤電話番号
を明記の上、締切日までに
博物館へお送りください。

宛先

〒125-0063
東京都葛飾区白鳥 3-25-1
葛飾区郷土と天文の博物館

※応募者多数の場合は抽選

また、当館ウェブサイトより
電子申請でのお申込みができます。